

ラグビー部々報

(委員戸島正夫)

岩中對盛中フグビー戦

四月二十九日どんよりと曇つてゐる空から今にも雨が降りさうだ。然し吾々十五名の心身は晴やかであつた、皆んなに校歌をもつて送られ何んとも言はれぬ感慨に打たれ道を歩きながら必勝して歸へることを誓ひ合つた。其の勝つにも技術に於ても精神的にも勝つことだ。吾々はあく迄スポーツマンシップで行き度いのだ、今吾々がこゝに岩手中學校に良き歴史を作らねば誰が作り得やうか。昭和四年の秋にも勝つた、昭和五年には同點で引分であつた、今此の試合には負けられぬ重大な責任がある。だが若しも負けたならばなどゝこんな思ひに更けりながら晴の盛中グラウンドへ向つた、ラグビーには丁度よい天候だ。グラウンドには白き線が眞直に引かれてあつた。吾々十五名は勇んでユニホームに着變へ、パス、ドリブル、キックなどの練習は行はれた、十五分位も練習をした時であらう雨がぽつ／＼降り始めた、だが吾々には今雨などは一寸も心になかつた。唯今か今かとレフリーのホエスルを待つた。兩軍は拍手に送られてナヤードラインに立つた。何れの側の人達も悲想なる

感で胸が打たれたであらう。

私は盛中の太田代君と握手をした、其の時兩軍の應援團はあのやうな廣き盛中グラウンドも割れるばかりの拍手は再びうたれた、レフリーのホイッスルは雨をおかして上田原頭へ鳴りひびいた。

皆の顔には再び刹氣が流れた。

盛中キックオフ!! 楕圓形の球は宙に浮いて飛んだ、そして戦は今火ぶたを切つて落されたのである。

何れも學校を愛する爲、又責任がある故、戦は猛烈であつた。

雨は淋し氣に流れて居た。

肉弾を持つて防ぐ物凄いタツクル!! 球をば敵に渡さないやうに身で守るセイビング。雨中の戦法とするドリブル!! パス、キック等益々兩軍の血は躍り、ラグビー其のものゝ味が見られた。

誰も彼もが顔は泥で目ばかり光つて居る、誰だか見分が付けられない程熱狂して居つたのであらう。

唯岩中の人だたと解ることの出来るのはユニホームである、橙色と黒色で色彩られた十二本の線だ。

ホイッスル!! あゝスクラムだスクラムだ!! 兩軍のF・Wは組まれた。敵に球はとられた、そうしてT・Bのパスで進ん

で來た、だが岩中の猛然と奮ひ立つたタツクに敵のT・Bは倒された。

時間は刻々に過ぎ風は雨と共に北に流れた、猶一層勵げしく戰鬪は續けられた、吾々岩中は中央に押されて來た。

戰は中々元氣旺盛である。その時である、F・Wのセンチである藤森君は胸をいためた、之は吾々にとつて大打撃であつた、然し彼は猶も奮闘して呉れた。

私はこゝに叫ぶ岩中で學びを受けてる吾々に何時なりとも愛校の情が燃へてゐるのは誰しもが知るところであらう、誰しもが持つべき誠心であらう、僕は藤森君に言ふた「大丈夫か、戦ふことが出来るか」と、すると彼は眼より涙をこぼし「俺はやる」と唯之だけ言ふたのであつた。此の一言に吾々は試合中とは言ひながらこみ上る熱き涙を呑んだ。涙と涙で話し合つた吾が健兒は走つた、そして球をとつた。進んだ、キック!!雨中の空に大きな圓を畫いてボールは落ちた。ルーズスクラムだ、岩中の組方は早い。球は横にそれてF・Wのマスドリブル!!練習の甲斐有り見事なドリブルだ。攻撃になり守備になりして戦ひ合つて居る中レフリーのホイッスルは高らかに響き渡つた。波の上を滑るが如くに!!試合は全くこゝに終つた。岩中は負けた盛中に敗られたのだ。

吾々の悲しさ、先輩に對して濟まないことやらで一度に押し出されて涙は止めども無く流れた。雨は遠慮なく身體に降り注いだ、此處に吾々十五名は涙ながらに誓ひ合つた。秋、秋だ、十月だ。必ず必ず復讐はして見せるそうして此の怨を晴すのだ。先輩に對して満足を與へるのだ、數分間は沈黙が續いた。

三、四名の先生方も來て慰めて下さつた、吾々は非常に嬉しかつた、慈愛のこもつた暖き言葉に勵まされて再び眉毛はぬた。

泥濘のグラウンドにはスパイクでふみにじられた戰の跡が残された、暴風雨の止んだ後の如くに!!。

結果は八對三で岩中は惜敗した、點數に於ては吾々は負けを取つた、だが僕はこゝにあの日の有りし其の儘の思ひを此の紙上を通じて述べたいと思ひます。之はきつと後の岩中ラクビー部に殘される記録だと信じて書きます。

○岩 中

1. F・Wは元氣がなくスクラムの組方が悪く一般に高いやうに思はれた。

2. 走るのが遅くT・Bに續かなかつたこと之は練習不十分から來た現象だと思ひます。

3. 良かつた點はドリブルは誠に立派なものであつた。

4. T・Bにボールの來なかつたのは遺憾であつた。

○盛中は皆最後まで體力が續いたから勝つたことと思ふ。唯それだけで技術に於て眞似するところは見られなかつた。

○今こゝで告白するのも敗惜しみだかも分りませんが吾々岩中ラグビー部の人々は斯の如き精神を以てプレーをしたと言ふことだけを述べます。決して之はラグビー部だけでは有りません何んの部に於ても此の精神が有つて欲しいのです。

前半に於て三對三であつた。後半に於て一トライーゴールをされた、だが僕としてはあのトライは全然トライはして居らない、それはこうである、ラインアフトからである。敵のH・B太田代君はボールを投げた、然しそのボールは眞直には投げられなかつた、そしてそれは完然なるカンニングボールでスクラムが命ぜられるのが當然のことなので吾々はだまつて立つて居つた。誰もタックルをしに行く者はない。だが諸君よ、レフリーはそれを認めて呉れなかつたのだ、皆はレフリーに訴へて出ようとした、此處でレフリーにつめ寄つたりすると問題でも起るだらうと思つて僕は皆をば制した、此處に岩手中学校のラグビー部の精神は表はれたのだ。否岩中の校風

が認められたのだ。

今あの試合當日をば追憶して見るにあの時は良く皆んなは我慢して呉れた、あれこそ岩中ラグビー部の尊き誠心なのだ、何時迄もくその精神を以て進んで下さい。そして岩中の存在を全國に廣めさせようではないか。岩中ラグビー部員よ!!吾々十五名の尊きこのパイオニヤスピリットに基いて尙もより良きものに向上させて下さい。飽迄も校風に従つて進んで下さい。之が最後の叫びて有ります。重任を負ふて奮闘して下さつた方々をお知らせ致します。

	(德)	森井藤保	正)	竹村	島畑	臺島藤戸	藤
	木	久	藤				
	々						
F.W	{	佐藤笹佐大工大中					
H.B	{	戸欠					
T.B	{	宮中齋漆					
F.B	{	佐					